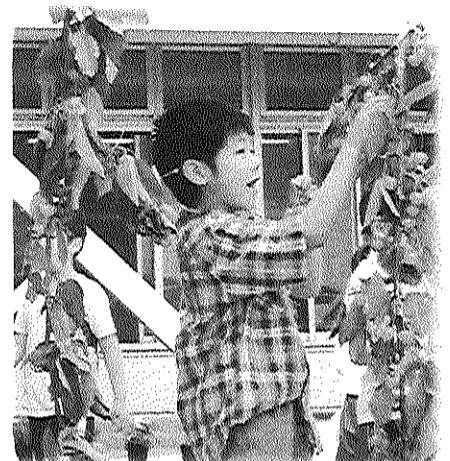


がんばろー山田 くじら山ろく

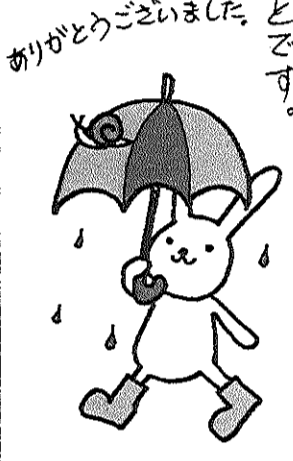
楽しかったサクラランボ狩り

7月4日、青森県のポランティアの方が大槌小学校と船越小学校の児童にサクラランボ狩りを体験させてあげたいと、木の枝についたままのサクラランボを持って来てくださいました。子供達は大喜びで初めてのサクラランボ狩りをしました。完熟したサクラランボを口にした子供達は「おいしい」「おいしい」の連続でした。「おいしい」の連続でした。口いっぱいサクラランボをほうばる姿を微笑みながら見てみると、ふと、一個も食べずに袋に詰められている子供達もいました。どうして食べないのと聞くと、「おぼあちゃんに食べさせたい」「お家へのおみやげにする」との答えが返って来ました。小学一年生の子が、自分だけではなく、お



感謝します

6月のある日、一人の女子高生が船越の、元三浦病院を少し過ぎた所を田ノ浜方面へ向って歩いていたら、突然大きな雷とともに激しい雨が降って来たそうです。その時田の浜方向から走って来た白いワゴン車に乗った方が、車を止めた傘を貸してくださいました。雨の中を安心して歩いて



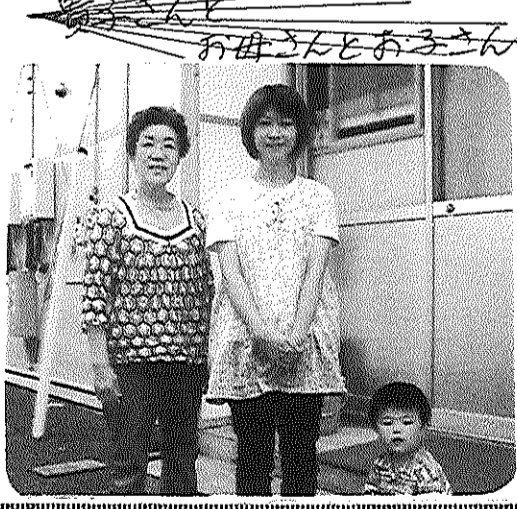
帰ることができたそうです。その方にお礼を言いたくても名前もわからず、何とかしてその方にお礼を言いたかったので、この新聞をとおして感謝の気持ちを伝えたいと、お母さんが訪ねてきました。家族のみなさんが感謝しているとのこととです。

おいしいものを家族で分け合いたいという気持ちにおおむす胸が熱くなりました。二年生以上の児童にもたくさんサクラランボを用意していただき、全員がおいしいサクラランボをいただくことができました。子供達のために協力してくださったサクラランボ農家の方々に、支援してくださいました。岡本さんに感謝の一日でした。



山田駅の時計

山田駅の近くに住んでいた田老貴子さんは、今回の震災で自宅を失ってしまいました。現在、田老さんは山田南小学校の仮設住宅におられますが、震災後、復興はもうろく大切ですが、後世に今回の震災が忘れ去られないように何か形で残すものがいいのではないかと考えていたそうです。田老さんにとって身近な山田駅が解体されると聞いたので、駅を残さないかと役場に相談しましたが、駅は町の所有物ではないので役場の判断では決まらぬとの回答が返ったそうです。それならば、駅のシンボリック存在であった大きな時計を残していただけないかと相談したところ、保管し



てくれるとの返事をいただいたそうです。現在時計は役場に保管されています。時計は津波が駅に到達したと見られる午後3時26分を止まっています。この時計の今後の保管先は決まっています。時計が、今回の震災の記録として残されていくのではないのでしょうか。

店はおさげいれど

大天地区でブトウストアを営まれていた武藤克規さんは、震災でお店を失ってしまいました。ですが倉庫は残り、その倉庫を使い4月末からお店を開いています。武藤さんはお店は小さいけれど地域のみなさんの食生活のお手伝いをしたいと話されています。店頭には並んでいるのは野菜や果物が多く、地域の人達の食生活や栄養等に配慮されているのが



感じられました。お休みは隔週で日曜日のみ、営業時間は午前10時から午後7時までです。野菜や肉、魚や生鮮食料品が数多く扱われています。何、た日、お店の前に並んでいる野菜がとても安い値段で販売されています。希望すれば、配達もしてくださるそうです。

お知らせ

北日本銀行山田支店が、旧山田病院の2階で営業を再開しました。営業時間は午前9時から午後5時までです。電話番号は震災前と変わらないうえです。なおATMは設置されていませんので、役場のATMを使用して下さいとのこととです。



“お待ちしています”
岩手銀行山田支店も、7月19日旧山田病院の2階で営業を再開する予定だそうです。

避難所山柳

あとすこし
避難所生活
がんばろう
これからだ
ほんとの復興
めざそうぜ
さまざま
ボランティアに
助けられ
大公望